



実証実験 公募プログラム 公募説明会



日本科学未来館



日本科学未来館(Miraikan)は、

科学技術を文化として捉え、
社会に対する役割と未来の可能性について考え、
語り合うための、すべての人々にひらかれた場

を理念に設立しました。

※2001年7月に開館した国立の科学館で、
国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）が運営しています。

Vision

あなたとともに「未来」をつくるプラットフォーム

「対話する」と「つくる」。両輪の活動へ。

Communicative Action — 展示・対話

科学コミュニケーション

「対話する」

常設展示



SC対話



SCアクティビティ



共創推進
「つくる」



実証実験・市民参加型研究



自主研究開発



地域実証

Productive Action — 研究開発・共創

共創推進
「つくる」

Productive Action — 研究開発・共創



実証実験・市民参加型研究



自主研究開発



地域実証

1. 研究開発 (研究エリア・ 入居プロジェクト、アクセシビ リティラボ等)



2. 実証実験 (外部研究開発、 地域との連携 等)



参考：研究エリア事業

事業趣旨・目的

- ・先端科学技術の研究開発の推進とともに、課題解決やイノベーション創出に向けた取組を行うための場を提供する。
- ・科学技術と社会の関係性の深化のため、研究者自らによる研究内容・成果を紹介し対話する場、および研究開発活動への市民参画を促す機会を提供する。
- ・未来館全体を「未来社会の実験場」として研究開発や実証実験等の場として活用し、市民が研究開発や実証実験等に関与・参画できる機会を提供する。

施設概要



全9室（3・4・5階部分）



入居イメージ

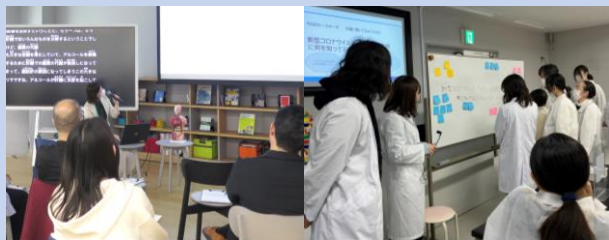


ハブスペース1室（3階部分）



実験スペース 1室（1階部分）

対話活動



市民の研究開発理解・関心

市民参加型研究



実証実験



研究開発の推進・社会実装

参考:研究エリア入居プロジェクト

【3F】303-304 「アバター共生社会」 プロジェクト



代表：石黒 浩（大阪大学）
主な研究：多数のアバターを用いて、拡張された人間が共生する社会の実現
主なSC活動：実証実験、対話

【3F】308-309 xDiversityプロジェクト



代表：落合 陽一（筑波大学）
主な研究：AIを活用し人機一体による身体的・能力的困難の超克を目指す研究
主なSC活動：ワークショップ、実証実験

【3F】310-311 運動能力開発・拡張 プロジェクト



代表：川上 泰雄（早稲田大学）
主な研究：科学・工学技術の融合により潜在的な身体能力を解明・開発
主なSC活動：研究室ツアー、対話



【4F】401-402 こどもからみる 不思議世界探求プロジェクト



代表：山口 真美（中央大学）
主な研究：赤ちゃんや子どもの視点での心理・環境研究
主なSC活動：市民参加研究、対話

【4F】403-406 Cyber Living Lab 身体性メディアプロジェクト



代表：南澤孝太（慶応義塾大学）
主な研究：メディアテクノロジーを通じた新たな身体的経験、可能性の拡張
主なSC活動：ラボツアー、実証実験

【4F】407 サステナブルバイオ テクノロジープロジェクト



代表：渡邊 一哉（東京薬科大学）
主な研究：食品廃棄物などから水素を生産するバイオプロセスの研究開発
主なSC活動：シチズンサイエンス

【4F】408-409 知的やわらかものづくり革命 プロジェクト



代表：古川英光（山形大学）
主な研究：ゲル材料と加工製造技術のマテリアル&プロセスイノベーション研究
主なSC活動：ラボツアー、実証実験

【4F】412-413 ヒューマン・オルガノイド プロジェクト



代表：武部貴則（大阪大学）
主な研究：ミニチュア臓器「オルガノイド」をツールとした新薬開発・臓器移植
主なSC活動：市民参加研究



【5F】501-502 Accessibility Lab

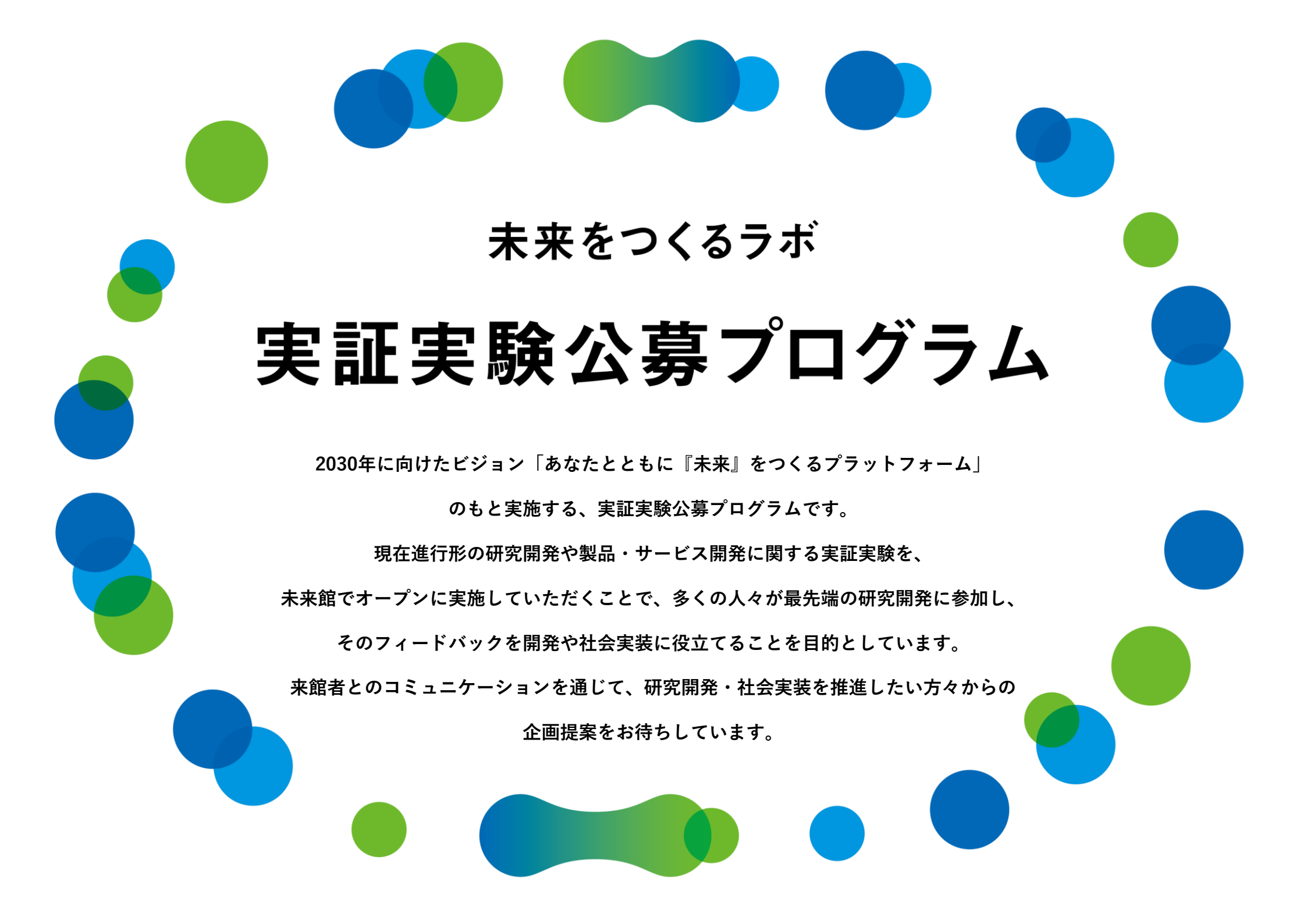


代表：浅川智恵子（未来館）
主な研究：AIスーツケース等アクセシビリティ技術開発
主なSC活動：AIスーツケース実証実験、触模型展示イベント

【3F】305-307 Tokyo Mirai Park Lab



東京ベイeSGプロジェクト（東京都）
研究開発：「未来の東京」を実現するイノベーションの創出を官民学の約300のパートナーとともに共創・創出
主なSC活動：ワークショップ、実証展示



未来をつくるラボ 実証実験公募プログラム

2030年に向けたビジョン「あなたとともに『未来』をつくるプラットフォーム」

のもと実施する、実証実験公募プログラムです。

現在進行形の研究開発や製品・サービス開発に関する実証実験を、
未来館でオープンに実施していただくことで、多くの人々が最先端の研究開発に参加し、
そのフィードバックを開発や社会実装に役立てることを目的としています。

来館者とのコミュニケーションを通じて、研究開発・社会実装を推進したい方々からの
企画提案をお待ちしています。

特徴と活用できるリソース

未来館をフィールドとして活用

未来館の施設を活用した実証実験を企画、実施することができます。

未来館各所は無償でご使用いただけます（実施場所の決定については個別相談）。

来館者の声が直接に得られる

年間約100万人が訪れる未来館で、年齢や国籍など多様な来館者を対象に実証実験を実施することで、研究開発や商品・サービス開発について幅広いフィードバックを得ることができます。

来館者とのコミュニケーションを支援

実証実験支援経験のある未来館スタッフや科学コミュニケーターが、来館者から意見やフィードバックを得るまでのコミュニケーションの工夫・ノウハウについてアドバイスを提供します。

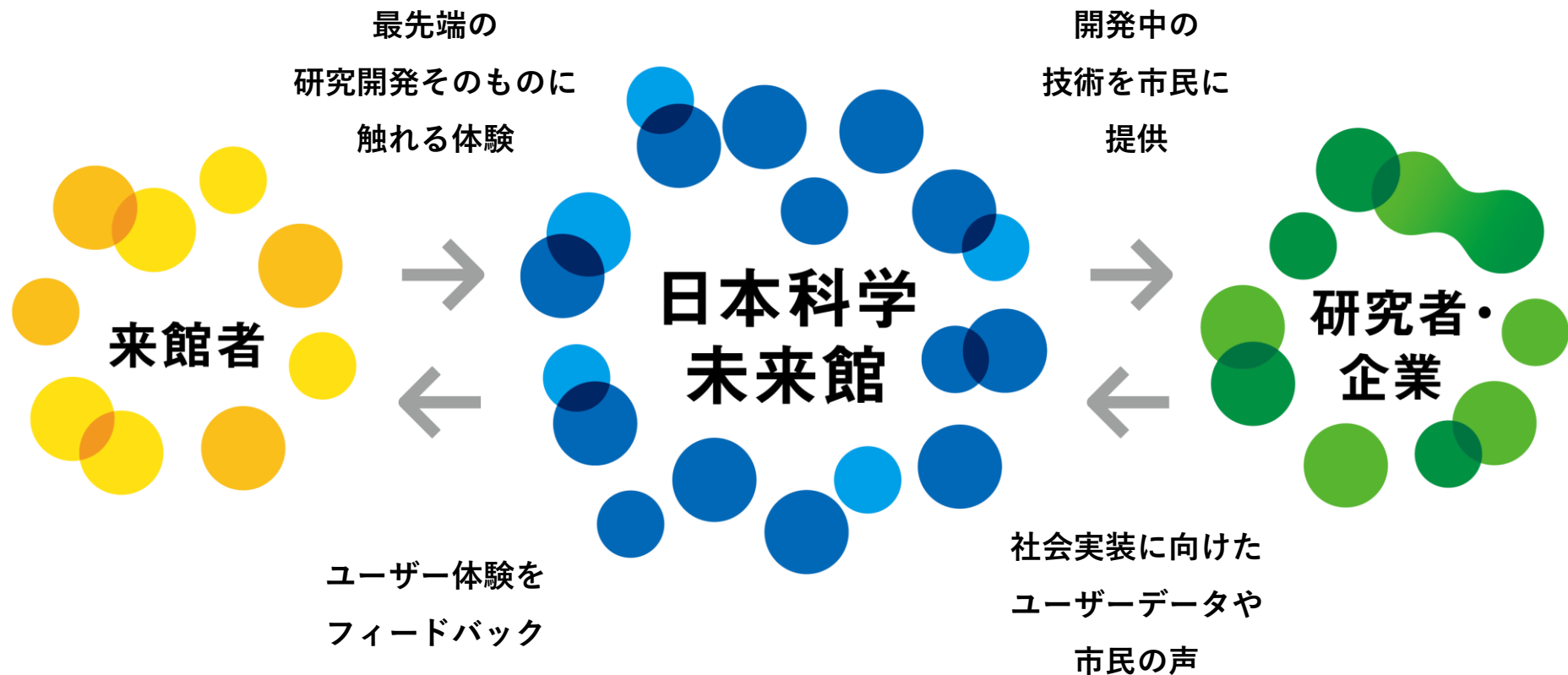
事務局メンバーの伴走体制

企画・実施について、ミュージアム・リビングラボ担当の経験豊富な事務局メンバーが一貫して伴走いたします。

告知協力や実績の掲載

未来館のホームページ等で、実証実験にかかわる告知や実績を掲載します。

未来館をフィールドにした実証実験とは



採択から実施までの流れ・期間

Step_1

募集・
応募

Step_2

書類選考
審査、調整

約2ヶ月

Step_3

実施契約
締結

約1ヶ月

Step_4

実施
計画書
提出

Step_5

実証実験
実施

約1年(最大)

報告書
提出
(終了)

※ 上記は想定です。採択後にご相談のうえ、実際の計画を策定します。

募集の詳細

(1) 対象となる提案

来館者が**先端科学技術を体験**でき、かつ来館者とのコミュニケーション等から得られた**意見やフィードバック**が今後の**研究開発、製品・サービス開発活動に反映**される、現在進行形の研究開発や製品・サービス開発に関する実証実験企画

※100名以上の参加・データ取得等を目指すもの。

※既存の商品・サービスの広報・マーケティングや、商品・サービス化前の導入テスト・市場調査と見なされるもの、医療行為、医療機器の実証は、本プログラムの対象となりませんのでご注意ください。

(2) 実施対象者

原則、一般来館者を対象としていただきます。

※未来館における来館者の振る舞いなどを対象とした実験も含まれます。

(3) 実証実験実施期間

契約日（2025年10月）～2026年9月末日までの約1年間

※最低1回以上とし、複数回、フェーズ毎の継続的な実施も可能。

提案書様式2「1. 実験内容」に、具体的な実施日程計画をご記入ください。

(4) 提案者

日本国内で法人格を有する企業、団体、大学・研究機関等であって、その構想を実現するために自立して実証実験等を推進できること。

(5) 実施場所

未来館各所：1階及び7階の貸出施設、おや？”っこひろば内特設スペース、5階ロビーエリア、6階・7階のドームシアター前ロビー、3階・5階常設展内。

※未来館各所は無償でご使用いただけます。

※実施場所の決定については個別相談とさせていただきます。

参考：<https://www.miraikan.jst.go.jp/visit/facility-rental/>

(6) 実施手法

試作機等の持ち込みによる技術評価・サービス評価、及び参加者・周囲の行動データの取得、アンケート調査等

※これら以外の手法を検討されている場合は、ご提案・ご相談ください。

(7) 成果の取り扱い

得られた**実証実験等の成果は、すべて提案者に帰属**します。

本プログラムにより得られた成果をもとに、対外的に発表すること等を推奨します。その際には未来館の協力の下実施されたプログラムである旨の記述を行ってください。また、未来館では、活動実績の集約をしていますので、実施後の広報・追跡調査等にご協力ください。

(8) 審査の観点 (加点項目抜粋)

- ・ 実証・検証内容が明確に示され、実証実験の成果がその後の社会実装や研究開発の推進に活かされることが期待できるか。そのためのロードマップや計画が示されているか。
- ・ 実施する研究や使用する技術に先進性・新規性や社会的インパクトがあるか。
- ・ 実証実験への参加、体験を通じて、未来社会の姿を想起し考えることができるか。
- ・ 研究者とのコミュニケーションや、インタラクティブな体験など、参加者の満足度が高くなる体験設計が期待できるか。
- ・ 社会における話題性やメディア露出が期待でき、参加者のみではない情報発信やアウトリーチ、未来館の対外的な広報・科学コミュニケーションに貢献するか。

(9) 応募方法

以下のウェブページから提案書をダウンロードし、必要事項を記入してください。その他の募集内容の詳細や評価の観点等、応募に必要な情報は、公募要項をご覧ください。

<http://www.miraikan.jst.go.jp/research/trial-project/koubo/>

(10) スケジュール

企画提案受付〆切：2025年6月20日（金）午前12時
選考結果通知・発表：2025年8月中旬予定

第1回公募 採択実証実験

- 生成AIを用いたユニバーサルガイドアプリによる
あらゆる人に最適な展示博覧体験サービスの実証
北村 幸弘（NHKグローバルメディアサービスユニバーサルサービスセンター）
- 多面連動デジタルサイネージと空間的・没入的映像提示による人流制御手法の検証
三河 祐梨（NTTコミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部）
- 生成AI 技術や画像認識を用いたロボットによる新しい対人サービスの実証
竹原 久雄（JALデジタル）
- 子ども型見守りロボット「Hanamoflor」の
子どもを対象とした活動の価値検証と社会受容性検証
袖山 慶直氏（ソニーグループ 事業開発プラットフォーム モーションAI開発部）
- AIクローン技術を活用した
人間とAIの共創的サイエンスコミュニケーションモデルの構築と検証
笠原 俊一（ソニーコンピュータサイエンス研究所 / 沖縄科学技術大学院大学(OIST)）
- スマートフォン用ソフトウェア＜空間楽器＞による
多様な人々と社会を結ぶアート手法の検証
古川 聖（東京藝術大学 美術学部 先端芸術表現科）
- 遠隔操作とロボット基盤モデルを組み合わせた
サービスロボティクスのスケール化に関する実証
松嶋 達也（東京大学大学院工学系研究科 / 一般社団法人AIロボット協会）

実証実験事例

自律走行ロボット



周囲の環境を学習し、自律的に移動するロボットの実証実験。周囲を行き交う人々や障害物をセンサーで感知して避けながら移動し、走行データを収集して環境に適応していきます。

実施者： 国立研究開発法人産業技術総合研究所
人工知能研究センター

実施場所： 常設展内

AIスーツケース



視覚障害者の移動を支援する自律型ナビゲーションロボットの実証実験。常設展内でのツアー体験を通して、体験者からのフィードバックや走行データを収集します。

実施者： 一般社団法人次世代移動支援技術開発
コンソーシアム

実施場所： 常設展内

3Dフードプリンターで作るお寿司



3Dフードプリンターで作った寿司ネタを来館者とともに試食。技術とともに、未来の食の可能性と期待や課題、社会受容性などを検証しました。

実施者： 「知的やわらかものづくり革命」
プロジェクト

実施場所： 5階ロビー

お問い合わせ

国立研究開発法人科学技術振興機構

日本科学未来館 科学コミュニケーション室 ミュージアム・リビングラボ担当

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番6号

お問い合わせ: <https://www.miraikan.jst.go.jp/contact/research-trial.html>

電話：03-3570-9199（受付時間：10:00～17:00）

※土曜日、日曜日祝祭日を除く

未来館ホームページ（<http://www.miraikan.jst.go.jp>）で最新の情報をご覧ください。